

歐米漫遊所感

文學博士 上田 萬年

今日は私の爲に歓迎の會を御開き下されまして有難うございます。別段珍しい事も御座いませぬが二三氣付きました事に就て御參考までに申上げて見ようと思ひます。それは一つは獨逸帝國のことに就て氣付きました點と、モ一一つは海外に於ける日本人に就て考へました點を御話して見たいと思ふのであります。

獨逸は今日日本の敵でありまして、日本人として獨逸の長所などに就て御話することは、或は御好みにならぬ御方があるかと思ひますが、私は遠慮なく諸君の前に其長所を述べ、又短所も述べて見たいと思ふのでございます。其前提と致しまして、獨逸が今度戰爭を開きました徑路に就て、私の知つて居る範圍で私の判斷を一つ申上げて見たいと思ふ。諸君も新聞に依つて大體は御存知であらうと思ひますが、何しろ私共の見ました所を直接御話して諸君の御參考に供して見たいと思ふのであります。

獨逸の側の主張する所に依りますると、此度の戰爭は獨逸が露西亞や、佛蘭西や、英吉利やの國々から壓迫された結果開くことになつたのである、と斯う云ふ主張であつて、英國へ引擧げて來た獨逸に居

りました留學生などが口を揃へて言ふ所も皆此説であります。日本へ歸りましても獨逸に居つた人の言ふ所を聞くと、矢張りさう云ふことで傳はり、又擴がつて居るかに私は考へるのであります。

併し私の考へる所では、今度の戦争といふものは、それと趣を異にして居て、寧ろ獨逸が多年狙つて居つた戦争の好期で、即ち去年の八月を最も好い時機として自ら進んで此戦争を開いたものだといふ信するのであります。其證據は今日までの形勢で御覽になつても分かるのであります。露西亞にしる、佛蘭西にしる、又英吉利にしる、此等の國々が戦備を整へて居らなかつたといふ事が最も好く此間の消息を明かにするのであります。即ち此等の國々の外交が破裂してから非常に慌て、各般の戦備を用意したといふことは、是れは事實でありまして、私共露西亞に居り、又英吉利に居り、或は目の邊り佛蘭西の軍が獨逸の軍に對して如何なる戦備をしたかと云ふことを見ましても、其點は明かな事實であるといふことが申されやうと思ひます。現に伊太利の如きはやはり用意をしない國の一つであつて、戦争が始まつてから陸軍の擴張費を議會から貰ふといふやうな有様であつた。伊太利の如きすら戦備はして居らなかつたのであります。又一方に於きましては、獨逸が戦争を開くについて如何に用意をしたかと云ふことがいろいろ側から證明が出来るのであります。例へば佛蘭西に於ける獨逸のスパイ・システム——軍事探偵を放つて佛蘭西各州の事情を始終報告させた所的手段、或は英吉利に居る獨逸人を使つて、英吉利の各方面の事情を密偵させた事實、此スパイシステムの組織が非常に好く行届いて居つて、いろいろの

側に向つて他國の油斷して居る所に就て獨逸が細心の注意を拂ひ、各般の報告を得て居つたと云ふことは明かな事實であつて、それは戦争が始まつてから後でも段々分かつて來るやうな次第であります。

又戦争の始まりました時期に就て考へましても、歐羅巴大陸は斯くの如き大戦争を豫期しなかつたのであります。又日本の外交官の七月中に於ける舉動を御覽になつても、日本の外交官は斯かる戦争の起ることは殆んど豫期しなかつたといふことが申される、日本の外交官許りでなく他の國の外交社會に於ても、斯う云ふ側に向つては、あんなに急轉直下すると云ふ考はなかつたのであります。唯々其秘密の鍵を握つて居つたのは獨逸の人許りであると云ふことが申されやうと思ひます。又露西亞に向つて開戦を布告しました所の獨逸の態度から見ましても、歐羅巴各國の油斷をした時を見料らつて彼の舉に出でたと云ふことは明かに申されますので、例へば露西亞に於ては彼の少し前に社會黨の大騒動があつた。彼得斯堡に大騒動があつて、國內の騷亂の端緒のやうなことが丁度開かれた。佛蘭西に於ても社會黨の騷動があつた。英吉利は御承知の通り愛蘭問題があつて内亂が起らうとして居つた、英吉利の國內といふものが寧ろ國論沸騰の時期で、殆ど干戈相見ゆるといふ時期に接して居つた時でありました。さう云ふ風に各國がいろいろ内部の事情の爲に苦しんで居る時機を見料らつて開戦を布告したのであります。

彼の開戦の端緒は諸君の御存知の通り、元は塞爾維と奧太利との問題であつた。奧太利の皇太子が暗殺されたことに就て奧太利が過重の條件を以て塞爾維政府に向つた、其中には國として塞爾維の承服出

來ないやうな個條も一二ありましたので、其點に於て塞爾維と埃太利との間の外交談判が行惱んで居つた、そして塞爾維が十二の個條の中の十個條までは埃太利の意志を迎へて和睦しようと云ふやうな時に方つて、埃太利はそれに満足せず兵を向けて塞爾維と開戦をした。此問題に就て英吉利始め列國は、間に立つていろいろ調停したのでありますけれども、埃太利が肯かぬ、詰り獨逸が後押しをしたのでありませう、其結果歐羅巴各國の調停といふものを無視して埃太利が武力を以て塞爾維を征伐した。其處で露西亞がスラヴ民族である點から動員をして、同時に此問題を圓滿に治めようと云ふ外交手段に出て居つた。然るに埃太利と露西亞との關係が破裂しない前に、第三者たる所の獨逸が出て來て、露西亞で動員を止めなければ獨逸は露西亞を敵として開戦するぞと斯う云ふ問題を持出した。此等も外交上から申しますると、獨逸としては少し突飛な遣り方であつた。少くとも埃太利と露西亞との關係が如何に落着すると云ふことを見てから後でも宜いとのやうに私共には思はれるに拘はらず、戰爭に於ては最も好い時期として獨逸は露西亞に向つて動員を止めると云ふことを言ひ出して、若し肯かなければ露西亞と干戈相見ゆると云ふ交渉を開きました。それが不調に終はると同時に戰爭が始まつた。戰爭を始めるに就ても露西亞との戰爭が始まらずに、露西亞の同盟國たる佛蘭西を最初に敵とした。非常な速力を以て佛國攻撃を獨逸が始めた。斯う云ふ開戦當時の有様から見ましても、獨逸の方には十分の軍備がある、用意が整つて居つて、其用意の整つて居ない國に向つて戦ひを挑んだと云ふ形勢は争へない事實のやう

に思ひます。

勿論戦争の遠い原因を調べて見ると、獨逸が歐羅巴各國から段々と壓迫されるやうになつたと云ふことは事實であります。それは何かと云ふと、獨逸が武力を非常に發達させる、陸軍に於ては今日諸君が御覽になるやうに、歐羅巴の強國二三個國を控えても驚かぬと云ふやうな強大な程度まで發達をさせ、又海軍に於ても本國を守ると云ふ點から云へば殆ど英吉利に拮抗して左程劣勢でないと云ふまでに海軍を勃興させて居る。又商業の點から言ひましても、段々英吉利を壓倒するやうな勢力を持つて來て、工業の上から云ふと、是れは英吉利を殆ど壓倒し盡したやうな形勢がある。斯う云ふ點に於てカイゼルの言葉を用ひて言ひますと、ドイツチエ・クルツル獨逸の文化なるものが歐羅巴各國の文化よりも一頭地を抜いて秀でた地位に立つた結果、獨逸から見ると、歐羅巴各國が殆ど愚のやうに見える、力の上から云ふと誠に意氣地がないやうに見える。又武力の外の知識の點から云ひますと、獨逸の知識と云ふものは他國の知識よりも優等の地位に居るが如くに見える、そこで獨逸人は昔時の美風であつた「禮儀を重んずる」と云ふ徳がだん／＼なくなつて來た。實力が充實して來ると共に段々禮儀がなくなつて來た。寧ろ歐羅巴に於ては傍若無人の振舞をする傾きがあるやうな感を歐羅巴各國に向つて與へた。其結果つまり獨逸と云ふものが歐羅巴に於て孤立の地位に陥つた。即ち東に露西亞あり、西に佛蘭西あり、西北に英吉利ありと云ふやうな譯で、此等の國々が皆獨逸に向つては警戒するやうになつた。殊に一九一二

年の有名な摩洛哥問題以來獨逸の地位と云ふものは殆ど孤立になりました、各國から除け者にされるやうな有様になつて來た、是れが獨逸に取つては外部の壓迫だと云ふ一つの原因になりませう。又さう云ふことの結果、最近に於て露西亞が軍備の改正をする、確か一九一六年から軍備の大改革を實行する。

佛蘭西も兵制の改革をすると云ふやうなことになりました、時期を緩めれば獨逸といふものは寧ろ佛蘭西や露西亞の陸軍の爲に不利の地位に陥ると云ふことが目の前に分つた。茲に於て其等の準備が十分に整はない中に一つ戦争をすると云ふことは獨逸に取つては必要な事であつた。又獨逸の側から云ふと、それが外部の壓迫を受けると云ふことの言ひ分になるのであらうと思ひます。さう云ふ點から御存知の通り、獨逸は先年何億かの非常に大きな國防費と云ふものを募りまして國防の改良に従事した、帝室始め貴族平民に至るまであらゆる階級から國防費と云ふものを出させた。其國防費と云ふものがやはり今度の軍資金になつて居ると云ふことは明かに申されます。

斯う云ふ工合で、他國から壓迫されると云ふことが事實であるならば、獨逸の執つた最近の政策と云ふものが寧ろ自ら壓迫を招いたものであると云ふことが申されやうかと私には考へられる。勿論獨逸人が他國を眼中に置かないと云ふことの元には幾分の眞理がありますので、獨逸人の長所として非常に勤勉であること、努力すること、又權力に服従すると云ふとの美德は、是れは英吉利にも佛蘭西にも露西亞にもないのであります。此獨逸の目から見ますと、佛蘭西英吉利露西亞等の有様と云ふものは餘程

滑稽なるものに見えるだらうと私は思ふ。一例を擧げて言つて見ますると、英吉利の皇帝は印度の皇帝であつて、印度と云ふものは英吉利の領地に屬するのでありますが、其英吉利人が研究しなければならぬ所の印度の學問が、英吉利人の手にはなくして獨逸人の手にある。例へば今日サンスクリットを研究して印度の古代宗教を研究すると云ふやうな人が日本にあるとして、其人が何處に行くかと云ふと、獨逸に行かなければ先生がないのであります。英吉利にはサンスクリット若くは印度の古代宗教、哲學、制度などに就ての學者はありますけれども、それは微々たるものであつて、獨逸の印度學者と云ふ上から見ても、數の上から見ても、力の上から見ても、長所の上から見ても比較にならない。之れを獨逸人の眼から見たら何と云ふか、英吉利では其學問を十分に發達させることの出来る資格の國であつて自分の領地内のことである、義務として其學問を發達させなければならぬ、獨逸の學者が獨逸の各大學に於て印度の講義をするのに、英吉利に於てはそれだけの人がなくて態々英吉利から獨逸に勉強に行くと云ふ有様である。此一事を以て御覽になつても、如何に獨逸人が英吉利の學術に對して侮辱をするかと云ふことは明かに言へるだらうと思ふ。

又是れば別の方面でありますが、工業の點から見ましても、例へば婦人の用ゐるコルセット——洋服の下に着けまする所のコルセットの製造の事に就きまして、戰爭が始まつてから後英吉利の新聞にやかましい廣告の出で居るのを見ました。英吉利の百萬の婦人が獨逸製のコルセットを使ふとに慣れて、獨逸か

らして輸入される所のコルセットの輸入額は千百四十萬ポンド（一億一千四百萬圓）に達して居る、之を止めて英吉利製のものを使へば千百四十萬ポンドからの利益があると云つて新聞などに廣告して居るやうな次第であります、こんな譯で、獨逸人の廉く拵へて多く出す所のを英吉利人は平氣で使つて居る。獨逸人の眼から見たら實に滑稽な話でありませう。マア獨逸人は其れで金儲をしたのでありますけれども、識者の眼から見たら實に笑ふ可きことと思ふ。又私自身の經驗したことであります、大學に行つて心理學などの機械を見ますると、英吉利が機械の發明の最も盛なる國であるに拘らず心理學の機械はみな獨逸から取寄せて居つた。さうして獨逸と戰爭になつて機械が來ないから心理の實驗が出來ぬといふことを英吉利人自ら言つて居る。斯う云ふ有様でありますから。進んだ所の獨逸人の眼から見たら、英吉利人は唯々金がある、お大名の様な生計をして居るだけであつて、國産などと云ふ事に就いては少しも考がない。つまり金のあるといふ點だけが偉いのであつて他は語るに足らぬ、有爲の國民でないと思つたのは無理もないと思ひます。斯う云ふ事が澤山あるのであります。又佛蘭西は共和政體であつて、人口は段々減る、國民が次第に華奢に流れると云ふ有様である。之を獨逸の勤勉なる又其中の優秀なる政治家から見たら佛蘭西が眼中になくなることは疑ない。又露西亞も然うである。日露戰爭の結果から見たら是れは與し易いものであると云ふことは直きに氣着くことと思ふ。

歐羅巴各國が斯う云ふ有様に陥つて獨逸人を増長させたと云ふことに就いては歐羅巴各國も義務があ

るといふことが申されませう。併乍ら戦争其ものに對する責任者は獨逸であるといふことを私自身としては信するのであります。是れは歐羅巴で非常にやかましい議論がありまして。英吉利では英吉利の國會のホワイトブックと云ふものがあつて戦争の顛末を發表するし、露西亞ではオレンジブックで戦争の顛末を發表する、佛蘭西でも發表する、獨逸も出して居りますが、各國が競ふて外交文書の發表などをして、戦争を開いた責任は何處にあるかと云ふことに就いて當時非常にやかましかつた。今でもやかましいのであります、當時は殊にやかましかつた。併乍ら私の見る所では、戦争を開いた責任は獨逸にあるといふことを信するのであります。

次に申上げたいのは、獨逸が今申した様に歐羅巴に於ての優秀なる地位に立ち、平和と戦争との鍵輪を握るやうになりました結果、先程申しました通り、獨逸の各國民に對する態度と云ふものが千八百七十年當時の獨逸人の態度とは非常に變はりました。是れは今回の戦争が十分に證明して居る。例へば諸君の御存知の通り、白耳義の中立を侵したやうなことは、是れは獨逸としての終世非難すべき點であらうと私は思ふ。尤も獨逸のカイゼル初め國民全體の今日の覺悟といふものは、國家の前にはモウ何も無い。宗教も無ければ道德も無い、國家の生存の爲めには如何なるものを犠牲にしても差支ないと云ふのが其の態度である。さういふ眼から見ますと、國際條約の如き、又公法の如き、此等も眼中になくなるのは無論の話である。

併乍ら爰で申上げますが、白耳義の中立を侵したと云ふことが今度の大戦争に於て獨逸の一大頓挫になつて居るのであります。御存知の通り千八百七十年の普佛戦争の際にも、千八百三十年に出來た條約に依つて此白耳義の中立と云ふものは侵さなかつた。之を侵すに就いては獨逸は非常な苦心をしたのであります。それは白耳義に與へて居りまする二回の獨逸の文書に依つても證明出來るとでありまして、獨逸は初に辭を卑うして白耳義を通ることを嘆願した。其れを肯かれずに、リエーシの戦争となりました後に再び白耳義に對して獨逸から鄭重な手紙が出て善後策を講じやうといふ交渉があつたが是れも不調に了はつた。何しろ白耳義の中立を侵したと云ふことが亦一方から言へば英吉利をして戦争に参加せしめた最も強い理由になつて居る。日本の新聞に出て居りますか、或は報告されたか何うか存じませぬが、私がストックホルムで見た獨逸の新聞に依りますと、開戦前獨逸のカイゼル及び皇弟のハインリツヒ親王からして英吉利の皇帝に對つて屢々手紙が往復された。其手紙が獨逸の新聞に出て居るのを私は見た。乃ち英吉利は中立に立つて呉れと云ふことを英吉利の皇帝に對つて切に懇願して居る。英吉利の皇帝も之に對つては非常に心配されて出來るだけの好意を表されて居りますが、最後の談判破裂と云ふものは、獨逸兵が白耳義の中立を侵してしまつたと云ふ電報が英吉利に達した時であつた。既に中立を侵した事實が存在する以上は英吉利皇帝も手を引かなければならぬと云ふことであつた。是れは新聞のことでありませぬし、又其新聞を持つて居りませぬから明なことは申されませぬが、私は當時さう云ふ事情

はあつたらうと思ふ。何しろ兩方ながらヴィクトリア女王の孫に當られる方であつて従弟同士の間でありますので、兩國の帝室の爲から言つても其位な交渉はあつたものと推察される。何しろ非常に迅速に白耳義の中立を侵してしまつたから、今更何うすることも出来ぬと云ふので談判不調になつたのは事實であらうと思ひます。

斯う云ふ譯でありまして、つまり今日萬國公法と云ふものがあり、平和會議と云ふものがあり、列國が委員を出して皆調印して居る、——無學の者であれば格別、さうでない、文明の國民、或は文明の國王と云ふものが批准して居る條約と云ふものを一朝にして破棄すると云ふ事、續いては白耳義に於て獨逸軍の働いた所業の如きは、是れは何うしても獨逸の爲めには千載の遺憾であるとしなければならぬ。白耳義に這入つて各所の街を占領するは宜しうございますが、占領すると同時にそれ／＼の街から軍糧品を徵發する、又戰時税を徵發する、税を出さなければ街を焼く、市長を殺すと云ふやうな譯。又さう云ふ事の爲に、市の市長であるとか、有名な學者であるとか、或は坊さんであるとか、財産家と云ふやうな者を人質にして連れて行つてしまつて、さうして獨逸の要求を一般の人民が肯くやうに壓制する事、罪のない所の國民——男にしる女にしる、又老人にしる子供にしる、兵隊が之を非常に苛めた事、又寺院、學校、病院の如きものを破壊した事、是れは戰爭の際に鐵砲が行つて打壞すのであつて、其れを壞すといふ意志があつたか何うかと云ふことに就いては詮議する餘地があると私は思ひますが、何しろ病院ま

でも打つと云ふやうな随分無鐵砲な用意周到でない所の所業があつたことは明であります。又白耳義の百姓などを捕虜にして連れて行つて獨逸の農業の手助をさせると云ふ事、此等も随分酷い話であつて、白耳義の人から言へば涙を呑んで世界の各國民に訴へる點である。交戦國ならば又幾分恕すことも出来るけれども、白耳義の如きはもと／＼中立國であつて、さう云ふ憎しみを掛ける程のものでなく、又一時反抗して獨逸が酷い目に遭つたのであるから之を憎むとしても、老人や子供や婦人のやうなものまで無暗に苛めると云ふことは、是れは各國民の非常な反情を獨逸が買つた原因になる。先程申したやうに戦争の爲めには總てを犠牲にする、獨逸の武力を發揮する爲めには其手段を問はぬと云ふやうな事は——まあ幾らか敵を軽く視、敵を無慈悲に取扱ふといふやうな側から言ふと然うあることの様に思ひますが、併し同時に是れが獨逸の陸軍に取つて非常な不利益なる點で、何處へ行つても、交戦國は勿論のこと、中立國に於ても、例へば最も大きい亞米利加などに於ても其非難が非常に多い、隨て獨逸に對する同情と云ふものが非常になくなつて居る。斯う云ふ有様であります。法律の方から言ひましても、各國との條約、萬國公法を初め、萬國私法もさうでありませうし、其他宗教上の慈悲と云ふ様なことも、道徳上の義理と云ふやうなことも、總て戦争の爲めには之を抛棄して顧みない。是れは獨逸の爲めに甚だ惜む點であります。即ち前申すやうに、一方に非常に傲慢心の發達して來て居ると云ふことの反射と見て差支ないと思ふ。又一方から獨逸を大帝國とするが爲めには是れだけの犠牲は已むを得ぬと獨逸

の方では言つて居る點であらうと思ひます。併し局外者から見れば、それが確に獨逸の一つの大缺點になつて居ると云ふことは明であります。

獨逸の開戦の有様、又獨逸の今日の地位殊に西歐羅巴に於ての地位の如きはさう云ふ次第であります。が、もう一つは獨逸が其國外に於て執つた運動を附加へてお話申し上げたい。

御存知の通り獨逸は此戦争が始まると同時に世界の各方面に於て英吉利佛蘭西に對する敵愾心を起させると云ふことに非常に力めた。例へば南亞弗利加に於て昔のボアを煽動して一騒動起させやうとか、或は土耳其などは現に獨逸の手段に因つて各國を相手に兵を擧げるやうになつたのでありますが、其土耳其を使簇するとか、又は亞米利加の新聞を買收し多くの金を撒布して、さうして亞米利加に於ての獨逸主義を發揮しやうとした、即ち英吉利佛蘭西の反對黨を大に造らうと云ふやうな計畫をした。又支那に於ても御存知の通り英吉利の英字新聞を獨逸が買收してしまつたと云ふやうな有様で、支那などにも非常な活動をさせて居る。世界の各地方に人を遣つてそれ／＼の策を講じさせて、いろ／＼英吉利苛め佛蘭西苛め、若くは露西亞苛めをしやうと試みたのであります。併し此側の事業は歐羅巴大陸に於ては陸軍の成績と相反して極めて不成績で、どの部分に於てもみな不成功に了はつた。支那に居る所のものが幾らか今でも邪魔をして居るでありませうが、其他の部分に於ける仕事は殆ど不成功に了はりつゝある。是れは不成功に了はる譯でありまして、獨逸の商業若くは獨逸の商船の如きものが——これは主と

して英吉利の海軍の爲でありますが、英吉利の爲めに皆潰されて、南米に於て一時英吉利の軍艦を沈め
たが、後に英吉利の軍艦から皆撃破されてしまつて獨逸の軍艦といふものは潜水艇の外は今日ではドー
ヴァー海峡より西へ出づることが出来ない、塊地利の海軍があつてもアドリヤチック海の沿岸から外へ
出づることが出来ないといふやうな次第で、獨逸の海軍と云ふものは今では封鎖されたやうな有様であ
る。御存知の通り主力艦隊の衝突がいつれ近い内にあります。それに依て大勢が定まるのであります
が、是れも獨逸としては出来るだけ遅い時期に於て起るとの様に私は思ふのであります。さう云ふ有様
で、今日獨逸に於て最も有力な地位にありますのが、歐羅巴大陸に於ける東の露西亞の側と佛蘭西の側と
の陸軍の對抗、是れは今日までの成績を御覽になつても分りますけれども、寧ろ獨逸の方が成績が好い。
英吉利の側は寧ろ防禦一方になつて居る。今後の形勢が何うなりますか。獨逸が兵力で勝つて經濟力で
負けるか、若くは聯合軍の如きものが兵力に負けてしまつて、兵力の點から服従されるやうになるか、
是れが今後見るべき形勢であらうと思ふのであります。此點に就いては私は英吉利や露西亞に居りまし
て其等の事情を知つて居るからでありませうが、此兩國は戰爭を何處までも長びかせる考であると信ず
る。戰爭を長びかして經濟力の上から獨逸を苛めると云ふ方針を執つて居るやうに思ふのであります。
でありますから獨逸の兵力が非常に強くつて二箇月か三箇月の内に英吉利や露西亞を叩いてしまふこと
が出来れば格別、さうでなく、英吉利や露西亞の注文通りに小競合で長く續けば續くほど獨逸は經濟力

の點から不利な地位に立つて遂に國民全般の統一の上から和を媾しなければならぬやうになるのではな
いかと考へて居るのであります。

是れに就いて日本の今後の立場に關係したことを一つ申上げて置きたいと思ひます。若し獨逸が勝つ
とすれば今後の世界と云ふものは當分宗教道徳から離れて實力の競争で、實力の強いところのものが世
界に生存し得る國と云ふ斯う云ふ方に向つて進んで行くことになる。つまり歐羅巴に於て獨逸が勝つて
歐羅巴の主權を獨逸が取るやうになりますれば、世界の各國共に道徳とか宗教とか或は條約とか法律と
か云ふやうなことは眼中に置かずに、武力を養ふことが出来て武力で以て打勝つ所のものが世界の主權
者になると云ふことで進む様に勢ひなつて來るのであると考へる。又若し獨逸が負けて聯合軍が勝利を
得ることになりますと、是れは其結果として國民の實力を養ふと云ふことが主になつて、武力と云ふも
のは其實力に應じての武力で差支ないと云ふやうな、英吉利とか佛蘭西とか亞米利加と云ふ如き國々の
考が世界の大勢を支配することになつて來るのであらうと思ふ。此二つの事だけは日本の國民としても
餘程注意しなければならぬことであつて、世界の大大勢上文明の移り變りの上から又どつちかの潮流に向
かつて、我が日本國民は其れに逆らふか若くは其れに順應するか其一つを擇ばなければならぬと云ふ運
命が目の前にあると思ふ。斯う云ふ點に於て特に今後吾々は戦局の結果を觀ると同時に前以て吾々が國
民の覺悟を喚起するやうに力めなければならぬと思ふのであります。

先づ戦争の方は其位のことにして置きまして、次には海外に於ての日本人の仕事に就いて少し私の感じたことを申上げて見たいと思ひます。

是れは日本の内地でも然うであります、特に今度海外に旅行して感じましたことは、海外に駐在する所の日本人が皆其國々の國風に囚はれてしまつて居ると云ふことで、其感じが非常に強かつた。例へば露西亞に行つて見ますと、露西亞ほど善い所はないと考へて居る。獨逸に行けば——私は參りませぬけれども、獨逸の留學生などに會つて聞いて見ると、先程申した様に獨逸は徹頭徹尾善いと云ふ様に、獨逸にすつかり惚込んでしまつて居る。佛蘭西に行けば佛蘭西の政治から國風まで佛蘭西流が一番善いと思つて居る。子供などは澤山持つ必要はない、親父とおふくろが樂をすればよいものであると云ふ様に、佛蘭西流の生活状態を謳歌して、其れが一番善いことのやうに思つて居る。亞米利加へ行けば亦然うである。亞米利加ではデモクラシーと云ふものが一番善いもので、國家とか軍國とかやかましいことは困ると云ふやうなことを言ふ。英吉利へ行つても矢張り然うである。是れは私考へて見たのでありますが、どうも日本の教育が宜しくない結果と思ふ。一體日本と云ふものを十分理解させるだけ、又理解した結果日本と云ふものに就いての正しき判断が頭腦にない結果ではないかと思ふ。若し茲に一つの日本流の考があるとするれば、露西亞の善い處と露西亞の悪い處、獨逸の善い處と獨逸の悪い處、それを篩ひ別けることだけは出来なければならぬであらうと思ふ。然るに其根本の國民教育に於て確乎とした土

臺のない結果、西洋へ行つて西洋の便利なことを見ると、日本の國情の如何に拘らず西洋の文明に心酔すると云ふやうな輕薄な考になつてしまふ。斯う云ふ點に於て、私は何うしても一つ是れは日本流の考と云ふものを養つて、さうして西洋へ行つて西洋の事物に接して長を採り短を捨てるると云ふ主義を力めなければならぬと云ふことを切に感じたのであります。

もう一つは日本から行つて居る者の間に國民としての聯絡がない。軍人にしろ、商人にしろ、學者にしろ、外交官にしろ、美術家にしろ、日本から行つて居るところの其等の代表者とも謂ふ者の間に國民としての聯絡がないと云ふことを私は切に感じたのであります。商人は商人で一區域を成して居る。軍人は軍人で一區域を成して居る。學者は學者で一區域を成して居ると云ふやうなことであつて、此等の人々が一緒に會し、一緒に談話を爲し、一緒に國家の命運を談ずると云ふやうなことい非常に少ない。殊に倫敦などに於てい餘程少ないやうに思ふ。二十年前に私の行きました時分にはさう云ふ點に於て随分私人に取つては有益な經驗がありますので、例へば軍人で言つて見ましたならば東條將軍も居られたし、醫者で言つて見れば北里博士も居られたし、法律家で言へば今の二木文相岡野博士も居られた。いろ／＼な人が居つていろ／＼な人と話し合ふところのチャンスがあつたが今では人々が一團／＼を成してしまつて意思の疏通と云ふものが少ない。例へば歐羅巴の大戦争が起つた所で、正金銀行の人とか、大藏省の財務官であるとか、或は三井物産の人とか、郵船會社の人とか、いろ／＼經濟や財政に關係し

た人が寄つて相談するとか話し合ふと云ふやうな、さう云ふチャンスが有るべくして無い。これは皆日本人が一種の團體的の方に流れて居つてさうして國民として纏まつて意思を疏通すると云ふ者が少ないのかと思ひます。私は露西亞のペトルスブルグに行きましたとき、代議士も居り、學生も居り、又は商人も居つたが、陸軍の井染少佐と云ふ人が旅館に來られて歐羅巴の形勢を話して下さつた。それは今日でも感謝して居る。陸軍の方がわざ／＼來て、丁度戦争の初に當つて露西亞に着いて定めし困るであらうからと言つて吾々の爲めに歐羅巴の形勢を話して下さつたけれども、斯う云ふことは他では少ないのです。斯う云ふことが盛に行はなければならぬ。學者は學者で他の側に向つて指導する所もありませうし、又外交官は外交官で他の人に向つて指導する所がありませうが、さう云ふ側の團結が日本人には非常に少ないやうに思ふ。

一例を取つて見ますと、私が今度旅行した間に日本人として最も不愉快に感じたことが二つあつた。それは何であるかと云ふと、倫敦に居るマダムツッソーと云ふ人(佛蘭西人)が蠟細工の名人で、世界の帝王及豪傑——豪傑ばかりでなく、婦人參政論者まで這入つて居るから豪傑ばかりでないが、其等の人の像を蠟細工で造つて大きな部屋に陳列して多くの人にそれを見せて居る。其中に畏多いとでありますけれども、明治天皇陛下の御像がある。其御像の部屋に於ての置場所です。前に行つて禮をするにも實に不愉快に感ずる様な場所にある。又、明治天皇陛下の御着になつて居るところの御服裝の如きも甚だ私

は見て不愉快に感じた。倫敦には澤山の日本人が居る。殊に同盟國の日本であるといふことを言ひながら、歐洲各國の帝王の御居でになる所に 明治天皇陛下が御居でにならない。斯様なことは倫敦に居る日本人の全體が氣着かなければならぬことである。我が大使館に於て會のあつたときに大使夫人に向つて、あれだけは何うかなさつたら宜からうといふことを申しました。其後何うなつたか知りませぬが、若し日本の各社會の人があゝいふことに向つて聊かの注意を拂つたならば決して斯様な場所に 明治天皇の御像を一日も置くべきでないと思ふ。是れが矢張り役人の側も普通の人の側も凡ての人が意思の疏通のない極く冷淡である結果であらうと思ふ。

もう一つ非常に不愉快に感じたことがあります。米國華盛頓の新しいナショナルミュージウムと云ふ所に行きますと、是亦人形を以ていろいろ各國民の生活状態を示す所がある。亞米利加の如きは、亞米利加内地に居る印度人の生活状態を人形で拵へて、さうして人形の傍に或は家を造つたり、或は魚を漁つて居れば魚の模型があると云ふ様にして、凡て其生活状態を示す大きな陳列所がある。其亞米利加の印度人であるとか、エスキモーであるとか云ふものゝ陳列してある續きに Empire of Japan (日本帝國) と云ふ名稱を打つて、日本の人形が陳列してある。其人形たるや、日本の實際の生活状態を示すものでない。チョン髷を結つて居るやうな日本人が帯に縦に煙管を挟んで立つて居ると云ふ様な、殆ど今日では見ることの出来ない様な人形が陳列してある。又お公卿様と云ふのがあつたが、其お公卿様の手と云ふものが印

度人の様な眞黒な手で、殆ど印度人と擇ぶ所がないやうなものが陳列してある。此等を見ても實に日本人の冷淡なることを示すものであると思ふ。印度人やエスキモーと並べられるのも困るけれども、是れもマア順序とするならば仕方がないが、其所にあつて、是れが日本人だと見られて日本人の今日の文明を説明するものがなく、又黒奴の様なお公卿様が立つて居るに至つては實に驚き入つたものであると思ひます。

さう云ふ有様であります、之を多くの日本人が看過してしまつて少しも善後策を講じない。此等も少し心ある人があるならば、例へば三井の様な處から人形を持つて行てもよいし。又富豪の如き人が——森村さんのやうな人が改良なさらうとすれば直ぐ改良の出來ることでありませうが、さう云ふことは全く疎かになつて居る。私は其日本部に行つて見て甚だ不愉快な感に打たれて、日本人が斯う云ふことに斯くまで冷淡であつて、亞米利加の印度人と日本人と同じ様に視られて居つて誰も故障を言はぬやうなら排日問題などがあつても大騒ぎするのは餘程馬鹿げた話である。排日問題に就いての解釋法でも、亞米利加人に日本人を正當に理解させるやうな方法を執らなければならぬ。日本人を正當に理解させるには、今申すやうな、日本を誤解する様なもの、陳列などに對しても、相當の官吏ならば官吏、又官吏がないまでも相當の日本人の紳士と云ふものが行つて改良しなければなるまいと思ふ。

斯う云ふやうな譯であります、是れがやはり日本人が歐羅巴或は亞米利加に行くと向ふの人に同化

してしまつて、亞米利加の人が可笑しいと言へば日本人も可笑しいと言ふやうになり、日本人として訂正すると云ふ氣にはならずに分も共に笑つて置くと云ふやうに、向ふの人に同化してしまふ結果か、然らざれば日本全體の知識がなくなり、正しいか正しくないか分らぬやうな人が一部分一部分の要職を占めて居る結果であると思ひます。斯う考へますと、そんなことに就いての善後策としても、何うしても海外に出る日本人に對して日本國を理解させる所の教育をもう少し強くしなければなるまい、又一般の日本人に對つても、同様に、もう少し日本人と云ふものは斯う云ふものであると云ふことを感じ得る様な教育を施さなければ非常に危いであらうと云ふことを感じたのであります。

また其外いろいろ申上げたいこともありましても、長くなりますから此位に止めて置きまして、又折がありましたら申上ることに致します。(完)

神前にて其心他念なく一筋に誠になれば、神も其誠のなりに來格して、かたみに感動する程に涙もこぼれつべし、たとへば、清くすめる水にそのま
ま月のうつりて互に光をますが如し。(駿台雜話)